

大東町羽折沢発の手づくりイベント
泥まみれでスポーツの祭典を満喫

「2016 どんこバレー in 羽根折沢」(同自治会主催)は8月7日、大東町摺沢字中羽折沢内の特設会場で行われました。コートは水を張った休耕田。泥だらけになりながら、必死にボールを追う参加者の姿に、会場は大きな笑いに包まれました。

同イベントは若い人が集まるきっかけを作ろうと、自治会の若い世代が企画。2年目となる今回は、地区外からも参加チームを募集しました。市内をはじめ、花巻市内から来たチームなど計6チームが参加し、目の前にボールが落ちて顔が泥だらけになったり、足が抜けずに転んだりする人が続出しました。



「カジカの里」復活を願った取り組み
日大生らが砂鉄川で「石磨き大会」に参加

大東町の下内野自治会が主催する「石磨き大会」は8月7日、砂鉄川で開かれました。下内野地区は砂鉄川の上流に位置し、以前は淡水魚のカジカが多く生息していました。生活排水などで汚れた川をきれいにし、かつての清流を復活させることが同大会の目的です。当日は日本大学生物資源科学部の学生や住民など約130人が参加。自然に優しい特製の「古縄たわし」を使い、砂鉄川をさかのぼりながら石を磨きました。

勝部欣一自治会長は「自然環境の保全と、水を通じた都市と農村の交流が図られれば」と話し、これからも活動を続けたいと意欲を見せました。

東山で「大相撲東関部屋フェスティバル」
地元住民が東関部屋力士との交流楽しむ

「大相撲東関部屋フェスティバル」(大相撲東関部屋東山町後援会主催)は8月13日、松川市民センターで行われ、地域住民約200人が夏合宿中の力士との交流を楽しみました。

参加者は東関部屋の朝稽古を見学。力強い張り手や迫力あるぶつかり稽古に、大きな拍手を送りました。力士との力比べでは、タイヤ引きや綱引きなどで競って力士の力強さを体感。そのほか、餅まきや特製ちゃんこの振る舞いも行われ、力士との触れ合いを満喫しました。東山町長坂の鈴木祐介さん(31)・翔汰君(4)親子は「力士の大きさにびっくり。話すときやさしい人ばかりでした」と笑顔で話してくれました。



「ケアチャレンジ」で思いやりの心を育む
中高生が高齢者の身体を疑似体験

「ケアチャレンジ2016」(ふじさわ地域包括ケア研究会主催)は7月26日、藤沢町の老健ふじさわで開かれ、市内の中高生13人が加齢による身体的な変化を疑似体験することで、高齢者への思いやりの心を育みました。

生徒たちは特殊な眼鏡や手足への重りなどを装着し、加齢による視力や筋力の衰えを体感。室根中3年の熊谷希望君は「目が見えないと、高さも分からない。想像以上に歩きづらかった」と驚いていました。講師を務めた作業療法士の加藤睦也さん(26)は「私も高校生のときに同イベントを経験した。高齢者にはやさしく接してほしい」と参加者に呼び掛けていました。

外国人と一関について語り合う
文化センターで多文化共生ワークショップ

多文化共生ワークショップ「外国人と一関を語ろう」(市主催)は7月16日、一関文化センターで行われ、市内在住の外国人をはじめ参加者40人が互いの文化について理解を深めました。

同イベントは在住外国人が地域と共に生き、地域の発展に貢献していく環境づくりを目指して今年から開催。参加者はゲームを通して自己紹介、一関の好きなお店、生活していく上で困っていることなどについて話し合いました。

小野寺柚月さん(一関学院高3年)は「国際的な活動に興味があり参加しました。ゲームや交流を通して相手のことを知ることができてうれしい」とほほえみました。



世界最先端の科学に触れる夏
中学生が研修前に結団式で決意新たに

市中学生最先端科学体験研修結団式は7月23日、市文化センターで行われ、市内や平泉町の中学生65人が研修を有意義なものにすることを誓いました。

最先端科学への理解と知識を深めようと、2010年から始まった同研修。今回は、8月8日から10日までの日程で、茨城県つくば市の高エネルギー加速器研究機構、JAXA 筑波宇宙センターなどを訪れました。結団式で勝部修市長は「研究者の話をじかに聞き、感動を覚えてきてほしい」と激励。千厩中3年の小野寺歳馬君は「苦手な部分を克服し、コミュニケーションを大切に科学に関心を高めます」と参加者を代表して決意を述べました。

ILCについて研究者から学ぶ
大東でサイエンスカフェ開催

「いちのせきサイエンスカフェ」(市主催)は7月31日、大東図書館で行われ、市民約30人が国際リニアコライダー(ILC)について理解を深めました。基調講演では、東北大学大学院准教授の佐貫智行氏がILCの研究内容や実現に向けた国内外の動きなどについて解説。ILC実現後の受け入れ態勢の構築に向けた準備組織として「東北ILC準備室」が設置されたことにも触れ、ILCが実現に向けて着実に前進していることを強調しました。

大東町大原の小野寺京子さん(58)は「ILCの廃熱をエネルギーとして再利用する話は興味深い。シタケの乾燥や冬場の暖房に活用できるかも」と期待を膨らませていました。



英語力と国際感覚を身につける
市内中学生が英語の森キャンプに参加

「英語の森キャンプ」(市主催)は7月27日から29日の3日間、巖美町のいちのせき健康の森で開かれ、市内の中学2年生55人が英会話体験などを通して英語力を高めました。

同イベントは、英語の生活や外国語文化の体験を通して、将来を担う人材に国際感覚を身につけてもらうことを目的に、毎年開催されています。生徒らは、国際姉妹都市の豪州セントラルハイランズ市(以下「セ市」)エメラルド州立高校の生徒とインターネット上で会話。好きな食べ物や得意なスポーツなどを互いに質問していました。大東中の佐藤美吹さんは「セ市の生徒と会話できて楽しかった」と笑顔を見せました。